

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

国立民族学博物館における1990年代以降の北アメリカ先住民資料の収集について：
イヌイト版画と北西海岸先住民版画を中心に

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岸上, 伸啓 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00006000

国立民族学博物館における1990年代以降の北アメリカ先住民資料の収集について —— イヌイット版画と北西海岸先住民版画を中心に ——

岸上 伸啓
国立民族学博物館

1 はじめに

国立民族学博物館は、北アメリカ先住民の民族資料を所蔵している国内でも数少ない博物館のひとつである。同博物館（以下、みんぱく）の発足のために収集や寄贈受入があったほか、1980年代には小谷凱宣氏によるイヌイット版画や北西海岸先住民版画などの収集が行われた（小谷 2009）。

小谷氏が名古屋大学に転出した1988年から筆者が着任する1996年まで、みんぱくには北アメリカ先住民を専門とする研究者は不在であった。そのため、この期間には北アメリカ先住民資料については新たな収集は実施されなかった。

その後、筆者は、中牧弘允氏を実行委員長とする1999年度特別展『越境する民族文化』や、大塚和義氏を実行委員長とする2001年度特別展『ラッコとガラス玉—北太平洋のための先住民交易』のために、イヌイット資料や北西海岸資料を現地で収集した。また、2002年には『極北のイヌイットアート展』コレクション（以下、アムウェイ・コレクション）がみんぱくに寄贈された。これらの収集や寄贈によってみんぱくのイヌイットアート資料と北西海岸先住民版画資料は、国内で有数でかつ最大規模を誇るものになった。

本稿は、上記の過去2度の収集による資料と寄贈受入資料について版画を中心に概観することを目的としている。

2 1999年度特別展『越境する民族文化』のための資料収集

1999年度特別展として『越境する民族文化』が開催されることが決まった。この展示の第2部は、「先住民の主張」というテーマで、オーストラリア先住民、イヌイット、サンらのアートを展示することになった。そして筆者はイヌイットアートを担当することになり、展示の準備行い、実施した（岸上 1999: 42-45）。

現代のイヌイットアートとは、おもに石製彫刻品、版画、タペストリーなどを指すが、筆者はみずからの調査地において石製彫刻品を中心に収集することに決めた。その理由は、イヌイット版画については小谷氏が収集した資料がみんぱくにはすでに存在していたことおよび筆者の調査地では版画制作が行われなくなっていたことである。筆者は、1998年11月15日から12月6日にかけてカナダ国ケベック州極北部（ヌナヴィク地域）の

アクリヴィク村，プヴィルニツック村，イヌクジュアク村，そしてモントリオールにおいておもに石製彫刻品を収集した。

イヌクジュアク村では，ジミー・アナミチアック（Jummy Arnamissiak）らの滑石彫刻品13点を収集した。プヴィルニツック村では，ピーター・ボーイ（Peter Boy）らの滑石彫刻品23点を収集した。アクリヴィク村では，アドミー・アナウタク（Adamie Anautak）らの滑石彫刻品75点を収集した。モントリオール郊外にある北ケベック生協連盟のアート販売部門においてヌナヴィク地域全体を代表するようなジョニー・イヌバック（Johnny Inupak）らの滑石彫刻品36点を収集した。このほか，おもにウングバ湾沿岸の村で制作されたタペストリー6枚を収集した。また，モントリオールの画廊「ギャラリー・ル・シャリオ」（Galerie Le Chariot）においてケーブ・ドーセットのヌナ・パー（Nuna Parr）が制作した蛇紋岩製の彫刻品（踊るホッキョクグマ）を収集した。

この時に収集したのは，ヌナヴィック地域でもおもに1980年代から1990年代にかけて制作されたアート作品から土産品にいたる多様な石製彫刻品148点とタペストリー6枚であった。なお，版画については収集しなかった。このコレクションは，1980年代から1990年代にかけてヌナヴィック地域で制作された作品に偏っているが，精巧なアート作品から粗雑な土産品までを網羅している点に特色がある。

3 2001年度特別展『ラッコとガラス玉——北太平洋の先住民交易』のための資料収集

2001年度特別展として『ラッコとガラス玉——北太平洋の先住民交易』の開催が決まり，筆者はアリュシャン列島やアラスカから北アメリカ北西海岸にかけての地域における先住民交易の展示を担当することになった（岸上 2001: 91-94）。展示の焦点は，交易であったため，北アメリカ北西海岸地域の交易舟（丸木舟）やビーズ製品などの交易品，儀礼道具，仮面などを中心に収集することにした。

この収集に際しては，カナダ国バンクーバー島の近島のアラートベイにあるウミスタ文化センターの元館長のグローリア・ウエプスター氏の協力を仰ぎ，ダグ・克蘭マー（Doug Cranmer）ら地元のアーティストに展示品の制作を依頼し，完成した作品を収集することにした。収集は，2000年7月25日から8月9日にかけて，カナダ国ブリティッシュ・コロンビア州アラートベイ，ビクトリア，バンクーバーで実施された。この時に収集した資料の中に，フランシス・ディック（Francis Dick）やリチャード・ハント（Richard Hunt），ウィリアム・ワズデン，Jr.（William Wasden, Jr.）ら北西海岸先住民が1992年から2000年にかけて制作した現代のシルクスクリーン版画10作品がある。

2000年度の収集はアラートベイを中心に収集したために，版画を含む大半の収集資料は，クワクワカワクゥ民族が制作したものである。

4 2001年度におけるアムウェイ株式会社からの寄贈受入

1989年6月5日の「世界環境の日」にニューヨークの国連本部のメインギャラリーで『極北のイヌイットアート』（原題“Masters of the Arctic: Art in the Service of the Earth”）が、環境問題を訴えかけるために開催された。この展示会は、アムウェイ環境財団が所有するイヌイットアートのコレクションが公開された。

この展示は、カナダ国（旧）北西準州と国連環境プログラム（UNDP）の後援を受け、ニューヨークを皮きりに、1994年1月5日まで米国、カナダ、日本、メキシコ、ブラジル、アルゼンチンの5カ国12カ所で開催された。その後、OBサミットでフォード元米国大統領と福田赳夫元首相が協議した結果、日本での巡回展が再び決まり、1994年3月29日から2001年9月3日まで札幌、仙台、東京、長野、金沢、京都、神戸、広島、福岡の9都市13カ所で開催された。

日本での巡回展の終了後、当時の財務大臣塩川正十郎氏を仲介者として2001年9月28日に日本アムウェイ株式会社から石毛直道館長に同巡回展のアート作品について寄贈の申し入れがあった¹⁾。その後、みんぱくでコレクションの受入が検討され、2001年12月19日に開催された研究資料委員会において受入が正式に決定された。その後、このコレクションの一部は2002年7月4日から7月23日までみんぱくのエントランスホールでお披露目の展示が行われた後、2003年6月1日から2010年11月23日までアメリカ展示場の地域テーマ展示として展示された。

この寄贈コレクションは、イヌイットをはじめとする極北地域に住む先住民が1960年代から1980年代にかけて制作した約150点のアート作品から構成されている²⁾。その内訳は、石製彫刻品が約70点、版画と絵画が約60点、衣類17点、タバストリーが4点である。それらの作品にはアラスカやグリーンランドの作品が含まれていたが、大半はカナダ極北の各地域を代表するアート作品であり、大地（自然）と人間の不可欠の結びつきや先住民の世界観を表象している。特に、カナダのイヌイット版画と石製彫刻は、おもに1980年代に制作されたものが多いが、地域的な差異を反映した作品から構成されており、アートとしてだけでなく民族学資料としても貴重である。

アムウェイ・コレクションの版画については1980年代を代表する作品30点から構成されているが、版画の内訳は、次の通りである。ホルマンの作品が9点、ベーカーレイクが6点、ケープ・ドーセットが5点、プヴィルニツックが4点、イカルイトが2点、パンガツングが3点、グリーンランドの作品が1点である。それらは、メリー・オーキーナ（Mery Okheena）、ピタルーシー（Pitaloosie）、パドロ・プッラット（Pudlo Pudlat）、ジェシー・オーナク（Jessie Oonark）ら各コミュニティを代表する作家による作品から構成されている。なお、絵画が27枚あるが、そのうちの16枚はベーカーレイクのアンナツクツーシ・ツルリアリ（Annaqtusi Tuluriali）の色鉛筆・クレヨン画であり、11枚はク

ライド・リバーのマーサ・キャク (Martha Kyak) のパステル・クレヨン画である。それらとは別に、ロシアとアラスカ、カナダ、グリーンランドの若者が共同で制作した大型アクリル・キャンバス画 (「世界平和を求めて」) が1枚である。

5 結語

本稿では1990年代以降にみんぱくが収集した、もしくは寄贈受入をした北アメリカ先住民資料について、版画に関連させながら紹介した。現在、みんぱくが所蔵しているイヌイット版画と北西海岸先住民版画は、おもに1990年以前に制作されたもの、特に1980年代に制作されたものが多く、かつ充実している。一方、これまでの収集の経緯が示すように1990年代以降に制作されたイヌイット版画と北西海岸先住民版画は少数にとどまっている。

今日、構図やモチーフ、技法が目まぐるしく変化し多様化しつつあるイヌイット版画や北西海岸先住民版画の全体像や通時的变化、地域的かつ作家による違いを理解するためには、1990年代以降に制作された北アメリカ先住民版画の収集が必要であると考えらる。

注

- 1) 日本アムウェイ株式会社の中島秀夫特別顧問と下川英美エグゼクティブ・コーディネーターが、「極北のイヌイットアート」展実行委員会を代表して、寄贈に関する事務手続きや交渉を担当した。お二人のご助力に記して感謝する次第である。
- 2) アート作品約120点以外に、巡回展で使用された教育用資料として写真パネルや、イヌイットの玩具や試着用衣類、教育キット、ビデオなどがある。また、アムウェイ・コレクションのうちセイウチ牙製の作品19点はカナダ国マニトバ州チャーチルにあるエスキモー博物館 (Eskimo Museum) に所蔵されている。

文 献

岸上伸啓

1999 「イヌイットの滑石彫刻と版画——芸術にみる伝統と近代」中牧弘允編『越境する民族文化』pp.42-45, 大阪：千里文化財団。

2001 「毛皮を求めて新大陸へ」大塚和義編『ラッコとガラス玉——北太平洋の先住民交易』pp.91-94, 大阪：千里文化財団。

小谷凱宣

2009 「民博所蔵の北米北部先住民資料について」国立民族学博物館編『自然のこえ 命のかたち——カナダ先住民の生みだす美』pp.82-83, 京都：昭和堂。